

中坪遺跡（第1次） No.2

所在地 : 松阪市朝田町・立田町 (まつさかしあさだちょう・たつたちょう)

位置情報URL : [三重県地図情報サービス](#) [中坪遺跡1次発掘調査現場](#)

中坪遺跡A、B地区では、奈良から室町時代の井戸44基と大溝8条などが見つかりました。特にA地区では、平安時代末頃の井戸から馬の上下の歯という珍しい遺物が出土しました。B地区では、今から約1300年ほど前の奈良時代に作られた古い井戸が見つかり、井戸枠の底から土器と祀りごとに使われた斎串（いぐし）と言われる木製品が見つかりました。



中坪A地区



中坪B地区



中坪B地区では、2つの井戸が重なるようにして見つかりました。手前の井戸が奈良時代の井戸で、見つかった井戸の中では特に古いものです。井戸枠は、長さ約100cm、幅約30cm、厚さ約5cmの板を「井」の字形に組み合わせたものが重ねられています。井戸枠の中からは、土師器甕と須恵器の壺（長頸壺）の一部が写真のような状態で見つかりました。



中坪A区の井戸の上層から動物の臼歯が見つかりました。調査の結果、この歯は馬の歯であることが分かりました。歯は劣化が激しく早急に取り上げることにしました。その後、さらに掘り下げていくと、山茶碗がほぼ完全な状態で出土しました。さらに、井戸の底には、集水のために設置された木製の曲物が残っていました。

馬の歯は、写真のように上下に列になって残っていました。おそらく上下のあごの骨は腐ってしまったと考えられます。井戸は、平安時代末頃に使われていたものですが、井戸の中でこのような動物の体の一部が見つかったのは大変珍しいことです。



牛や馬の骨や歯が井戸から見つかったという例は全国でも確認されていますが、出土状況から、祭祀的な性格をもつ可能性が指摘されています。

馬の歯を取り上げた後、井戸の底にある曲物の中を調べました。写真のように曲物の中から完全な状態の山茶碗や、握り拳大の石が多く見つかりました。これらは井戸が使われなくなった際に、いっしょに放り込まれたものと考えられます。どのような意図があったのか謎が残ります。



中坪遺跡の調査は、1月をもって概ね終了することになりました。今回の調査では、多数の井戸と大溝をはじめ、縄文土器や土師器、山茶碗などが数多く出土しています。特に井戸から出た齋串や馬の歯などの珍しい遺物は、当時の風習を知る上で重要な意味をもちます。今回の成果を今後の調査につなげていきたいと思えます。

<問い合わせ先>

〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503

三重県埋蔵文化財センター調査研究1課

担当者：萩原義彦・小原雄也・東清隆・伊藤亘

電話番号：0596-52-7028/FAX：0596-52-7035 E-mail：maibun@pref.mie.jp